

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：都市局 街路交通施設課
担当課長名：服部 卓也

| | | | | |
|--|---|---|---|--------------------|
| 事業名 連続立体交差事業 JR南武線（矢向駅～武蔵小杉駅間） | 事業区分 連続立体交差 | 事業主体 川崎市 | | |
| 起終点 自：神奈川県川崎市幸区塚越四丁目 至：神奈川県川崎市中原区上丸子山王町二丁目 | | 延長 4.5km | | |
| 事業概要 本事業は、JR東日本南武線の矢向駅～武蔵小杉駅間約4.5kmにおいて鉄道を高架化し、9箇所の踏切を除却することにより、交通渋滞の解消、踏切事故の解消、市街地の一体化等を図るものである。 | | | | |
| H29年度事業化 | R6年度都市計画決定 (予定) | R6年度用地着手 (予定) | R11年度工事着手 (予定) | |
| 全体事業費 | 約1,387億円 | 事業進捗率 | 約0% 供用済延長 - km | |
| 計画交通量 | 約205,000台時/日（踏切交通遮断量） | | | |
| 費用対効果 | B/C (事業全体) 1.4 (残事業) - | 総費用 (残事業)/(事業全体) - /843億円 事業費： - /837億円 維持管理費： - /6.1億円 | 総便益 (残事業)/(事業全体) - /1,192億円 移動時間短縮便益： - /1,167億円 走行経費減少便益： - /12億円 交通事故減少便益： - /13億円 | 基準年 令和5年 |
| 感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.2～1.5（交通量±10%） (残事業) 交通量：B/C=-～-（交通量±10%） 事業費：B/C=1.3～1.6（事業費±10%） 事業費：B/C=-～-（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.3～1.5（事業期間±2年） 事業期間：B/C=-～-（事業期間±2年） | | | | |
| 事業の効果等 交通渋滞及び踏切事故の解消、市街地の一体化が図られる。 公共交通の生活利便性の向上及び沿線小学校の通学路における踏切の危険性解消がなされる。 緊急輸送道路及び広域避難場所に向かう避難路の確保がなされる。 高架化によって創出された高架下空間の利用が可能となる。 | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 特になし。 | | | | |
| 事業評価監視委員会の意見 事業継続を妥当と認める。 | | | | |
| 事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等 周辺環境等に特に変化はない。 | | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 用地取得率約0%、事業進捗率約0% | | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 令和6年度に都市計画決定及び事業認可の取得を行い、詳細設計及び用地取得に着手する。 | | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 当初計画していた「仮線高架工法」から事業期間の短縮及び事業費の縮減が見込まれる「別線高架工法」に工法を変更した。さらに今後も新技術の採用等による工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。 | | | | |

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。